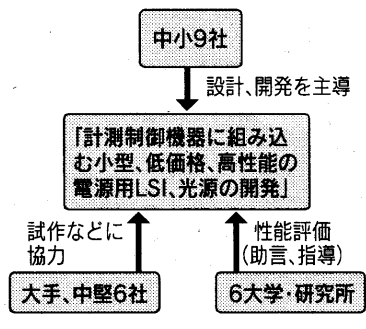


広域多摩のプロジェクトのイメージ



計測機器開発で ハイテク集積

広域多摩で産学連携スタート

「計測制御機器の開発を通じて、多摩をハイテク産業の集積地に」。こんなプロジェクトが広域多摩に立地する十五の企業と、六大学・研究機関の連携で動き出した。医療、情報通信など幅広いハイテク機器に低コストで組み込むことができる小型、高性能の共通部材を二〇〇八年三月までに協力して開発。この部材を活用し、プロジェクトの参加企業はそれぞれの得意分野で事業拡大を目指す。

プロジェクトでは電源が発するノイズを制御する大規模集積回路(LSI)、小型光源、作動制御装置などを開発する。今後、計測制御機器の製造分野で需要増が見込ま

07年度までに 部材完成 自社事業に応用狙う

れるものが中心で、一個当たりの販売価格は電源用LSIで四千―五千円、光源と作動制御装置は五万―十万円にしたい考え。

参加企業はこれら部材をハイテク機器の製造や、微細加工など実際の事業に活用。初年度の〇八年度は参加企業合計で四十億円弱の事業規模になるといふ。

プロジェクトにはエリオニクス(八王子市)、東成エレクトロロビーム(瑞穂町)など地元のハイテク中小九社と、沖電気工業、富士写真フイルムなど地域に事業所を持つ大手、中堅六社が参加。

中小九社が基本的な開発業務を担い、大手、中堅の六社が研究所、工場設備を使って実際の試作などで協力する。東京農工大学、都立産業技術研究所などの大学、研究機関は、専門的な立場か

ら開発のプロセスを評価し、助言や指導を行う。

近く東京都八王子市がJR八王子駅前に設けた八王子先端技術センターを拠点に、コンピュータを使った本格的な設計、開発作業に入る。資金、進捗などなどの管理は技術移転機関(TLO)、タマティーエルオ(八王子市)担当する。

もともと大手メーカーの研究所、工場などが多い広域多摩は、周辺産業として育った微細加工技

術などを持つハイテク中小企業の集積地という側面がある。今回のプロジェクトは経済産業省の補助事業として二〇〇七年度を期限とし、七億円(見込み)の予算で始まったもので、地域特性を生かした初の本格的な産学連携事業となる。